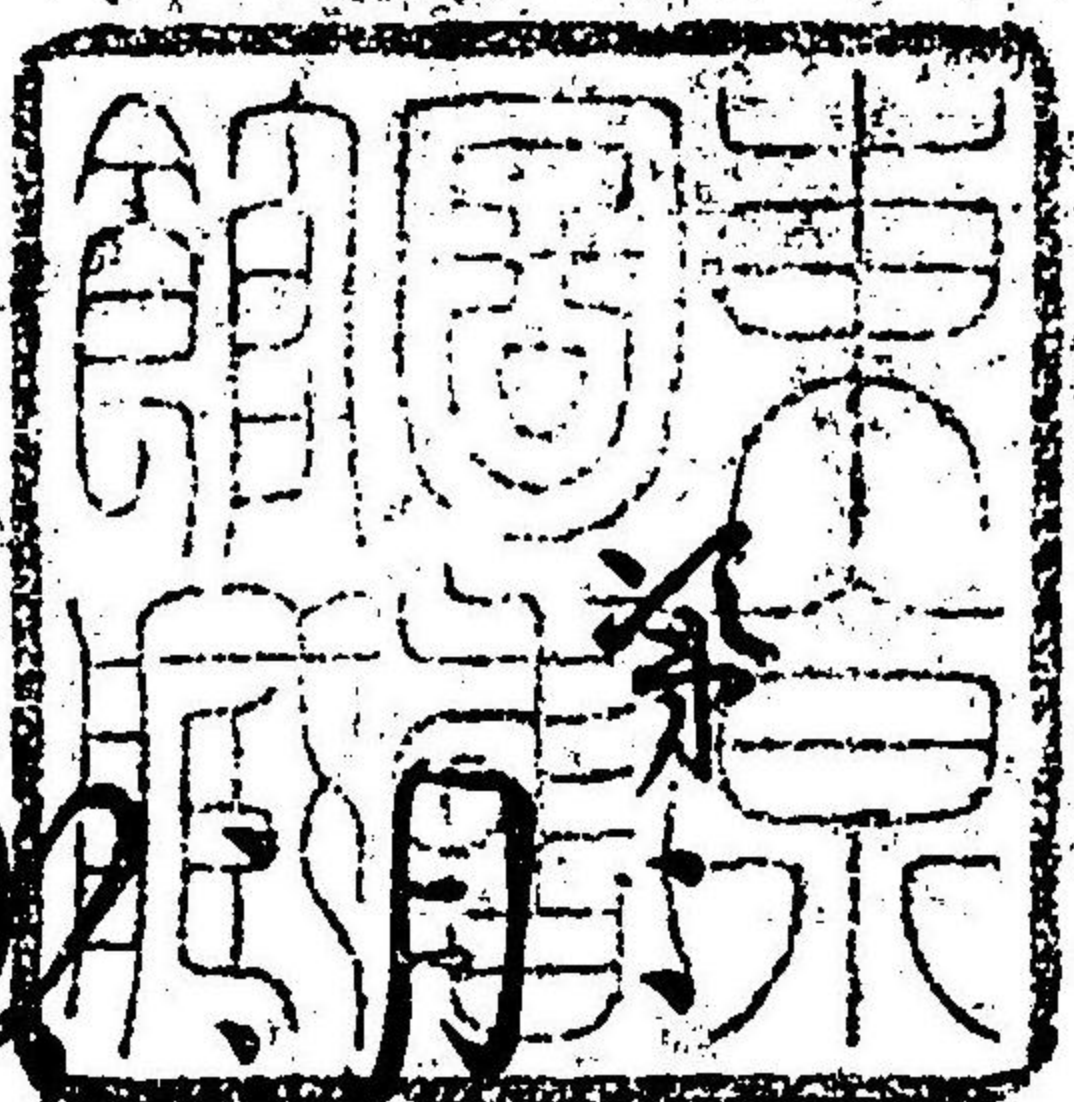


特+2
459

江口
13

館書圖京東				
110	74	架	函	音樂類
冊	號			和書門



江口

一見此僧多て作我いまた津乃國
是也諸國

天王寺よしあしひの程よ此度思ひ

立ち玉寺よまじりもやと思ひ作
都トもトまト夜ト深トまト核トまトく

渡れり舟行来る。しづの岸邊ほ
乃ん見^カ松乃煙の浪よきる。江口
雲^カ雲よきる。しづの岸邊ほ
あつ江口乃君の着跡。や痛り
や身才ハ去中よ押せ。しづの岸邊ほ
とまりて今度も昔も。しづの岸邊ほ
跡^カ跡^カみ^カみ^カの^カま^カら^カま^カま^カも^カや

西行法師此可^カく^カの^カ言^カより
き^カお^カの^カあ^カる^カし^カの^カあ^カる^カし^カの^カあ^カる^カ
な^カら^カい^カて^カい^カて^カい^カて^カい^カて^カい^カて^カ
と^カの^カ惜^カず^カと^カの^カ惜^カず^カと^カの^カ惜^カず^カ
可^カま^カの^カ事^カあ^カる^カな^カら^カい^カて^カい^カて^カ
登^カ休^カ ^カあ^カら^カい^カて^カい^カて^カ
乃^カ手^カを^カ行^カと^カ思^カひ^カよ^カり^カて^カい^カて^カ

24

あまのこゝろ女白も

あまのこゝろ女白も

あまのこゝろ女白も

あまのこゝろ女白も

あまのこゝろ女白も

あまのこゝろ女白も

あまのこゝろ女白も

あまのこゝろ女白も

あまのこゝろ女白も

あまのこゝろ女白も

あまのこゝろ女白も

あまのこゝろ女白も

あまのこゝろ女白も

あまのこゝろ女白も

流し惜まぬ候乃富ありて
也惜しむ浪の裂くぬら
今もても。捨人乃世語よ
りたひ了り。定やうも世乃物語
まきん染もたそくれよまう人
きうねん。世乃物語よ
敷きほのし。あはれありて

海乃口乃流し君もあはれ
もろも。梅さ舞ひ何し磯れ
清し節あや。あはれ住し我
宿乃梅のたらしあはれ
思乃あはれ。妻君もあはれ樹の
陰も宿もあはれ。あはれ
秋の口乃あはれ。あはれ

君乃 幾志レと 聲レつりて 入レよ

きりく 下 甲 毎レ口レの 君レの 幾志レの

見レ子 題レを 物レの 幾志レの 幾志レの 幾志レの

若レ弟レの 幾志レの 幾志レの 幾志レの 幾志レの

幾志レの 幾志レの 幾志レの 幾志レの 幾志レの

幾志レの 幾志レの 幾志レの 幾志レの 幾志レの

幾志レの 幾志レの 幾志レの 幾志レの 幾志レの

幾志レの 幾志レの 幾志レの 幾志レの 幾志レの

幾志レの 幾志レの 幾志レの 幾志レの 幾志レの

幾志レの 幾志レの 幾志レの 幾志レの 幾志レの

幾志レの 幾志レの 幾志レの 幾志レの 幾志レの

幾志レの 幾志レの 幾志レの 幾志レの 幾志レの

幾志レの 幾志レの 幾志レの 幾志レの 幾志レの

幾志レの 幾志レの 幾志レの 幾志レの 幾志レの

元亨二年... 其蔭とありまれ... 白雲とあり
つ... 白妙れ白雲... 有...
打... あり... あり...

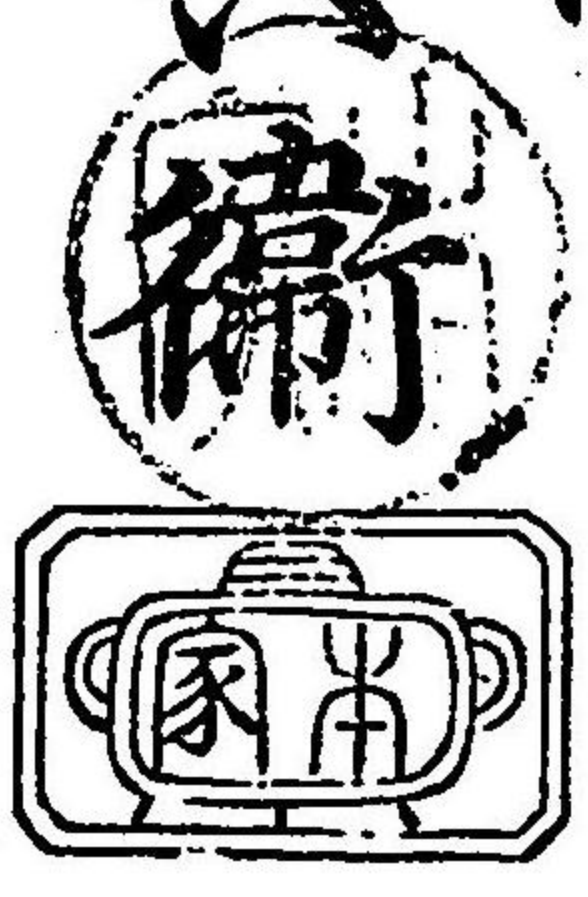
右之本者觀世太夫織部
章句真本令成行畢

正徳六丙 申歲弥生

天保十一庚子歲孟春改正再板

皇都二条通御幸町西江入町

山本長兵衛



明治十七年三月六日翻刻御届
同年四月十二日別製本御届

翻刻人

京都府平民

寺田熊次郎



下京區第五組麩屋町

錦小路九梅屋町十三番戶



